

経営ビジョン2030
カーボンニュートラルビジョン2050

経営ビジョン2030

九電グループは、今後も事業活動を通じて、基盤である九州の持続的発展に貢献し、地域・社会とともに将来にわたって成長していくために、長期的な経営の方向性として、2019年6月に「九電グループ経営ビジョン2030」を策定しました。

本経営ビジョンでは、「2030年のありたい姿」とその実現に向けた3つの戦略を定めるとともに、経営目標を設定しています。(経営目標の詳細は **P21** 参照)

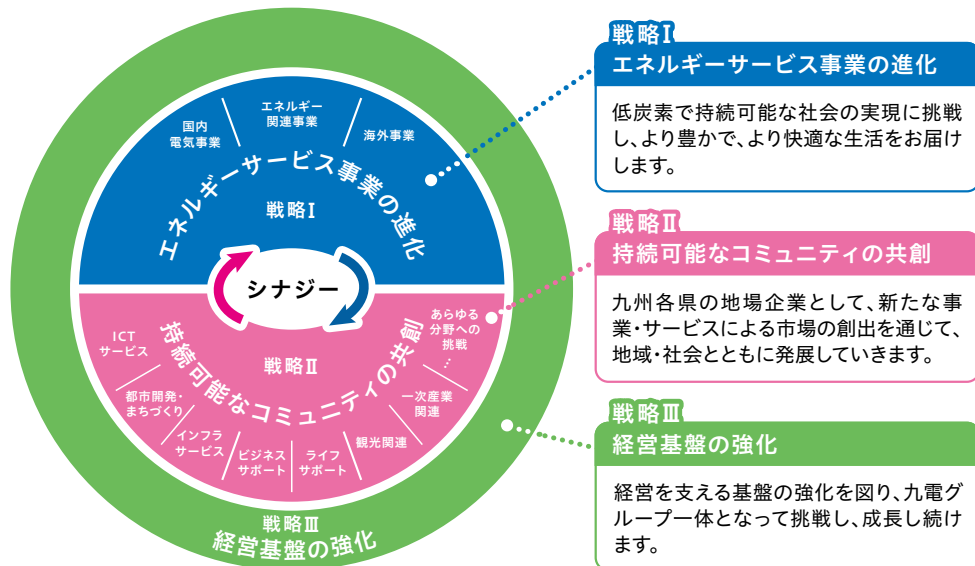
本経営ビジョンのもと、グループ一体となって様々な取組みを進めることにより、地域・社会とともに持続的な成長を目指すと同時に、ステークホルダーの皆さまへの価値提供を果たしていきます。

2030年のありたい姿

九州から未来を創る九電グループ

～豊かさや快適さで、お客さまの一番に～

ありたい姿実現に向けた3つの戦略



戦略Ⅰ
エネルギーサービス事業の進化
低炭素で持続可能な社会の実現に挑戦し、より豊かで、より快適な生活をお届けします。

戦略Ⅱ
持続可能なコミュニティの共創
九州各県の地場企業として、新たな事業・サービスによる市場の創出を通じて、地域・社会とともに発展していきます。

戦略Ⅲ
経営基盤の強化
経営を支える基盤の強化を図り、九電グループ一体となって挑戦し、成長し続けます。

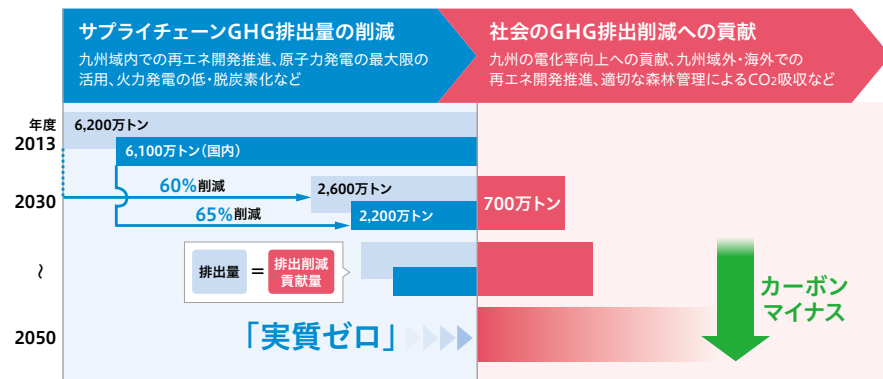
カーボンニュートラルビジョン2050

九電グループは、2021年4月に「九電グループカーボンニュートラルビジョン2050」を策定し、カーボンニュートラルの実現に挑戦するとともに、低・脱炭素のトップランナーとして九州から日本の脱炭素をリードする企業グループを目指すことを宣言しました。

さらに、「電源の低・脱炭素化」と「電化の推進」に取り組む方針を定めるとともに、その実現に向けたアクションプランでは、2030年の経営目標(環境目標)や、KPI(重要業績評価指標)を設定するなど、カーボンニュートラル実現への道筋を示しています。

2050年のサプライチェーン温室効果ガス(GHG)排出量「実質ゼロ」への挑戦や、九州の電化率向上への貢献などにより、社会のGHG排出削減に大きく貢献していくことで、九電グループの事業活動全体の「カーボンマイナス」を2050年よりできるだけ早期に実現していきます。

社会のカーボンニュートラル実現に向けて九電グループが目指す姿



2030年経営目標(環境目標)・KPI (進捗状況は **P58** 参照)

【経営目標(環境目標)】 サプライチェーンGHG排出量 60%削減(2013年度比) ※: 国内事業は65%削減		
供給側	KPI	再生エネの主力電源化 再生エネ開発量500万kW(国内外)
	KPI	火力発電の低炭素化 省エネ法ベンチマーク指標の達成 水素1%・アンモニア20%混焼に向けた技術確立
【経営目標(環境目標)】 九州の電化率向上に貢献 家庭部門: 70%、業務部門: 60%		
需要側	KPI	家庭部門 増分電力量15億kWh(2021-2030年累計)
	KPI	業務部門 増分電力量16億kWh(2021-2030年累計)
	KPI	運輸部門 社有車100%EV化(特殊車両を除く)

「カーボンニュートラルビジョン2050」(アクションプラン含む)の詳細は九州電力ホームページ(以下)をご覧ください。
<https://www.kyuden.co.jp/> ホーム > サステナビリティ > **カーボンニュートラルビジョン2050**